

心の栄養剤No185 『今が一番楽しい』

十数年前、ラジオ番組のあるコーナーで「人生を振り返った時、いつが一番楽しかったか」というお題がリスナーに出された。

偶然聴いていた私は「東京で一人暮らしを始めた大学生の頃かな」などと車を運転しながら考えていた。

約1時間後、リスナーの答えの集計結果が出た。一番多かったのは「今が一番楽しい」だった。

一瞬「えっ？」と思った。意外な感じがしたのだ。今の自分を顧みてすぐに共感した。

あの当時、長男が生まれたばかりだった。夜泣きで夫婦揃っていつも寝不足だった。前職の会社に就職して3年くらいの頃で、まだまだ自分の仕事が軌道に乗っておらず、毎日苦悩していた。

そんな状況だったにもかかわらず、言われてみれば「**今が一番楽しい**」と確かに思えた。

「父親」という役割を新たに担った私の毎日はとても充実していた。仕事は大変だったが自らの考えで営業戦略を練ることにやりがいを感じていた。日々の色は濃く、大学生の頃の楽しさとは違った「生きること」の深い味わいを感じていた。

あのラジオ放送を聴いて以来、いくつになっても心から実感するようになった。「**今が一番楽しい**」と。

春がまた来るたび ひとつ年を重ね・・・（中略）
陽気にはしゃいでた幼い日は遠く
気がつけば
五十路を超えた私がいる

竹内まりやの『人生の扉』の歌詞である。この歌が今、私の心を揺さぶる。移り行く人生にあって、それぞれの年代にそれぞれの輝きがある。それでも50代になった今、振り返ってみると今が一番楽しい。

まだまだお金がかかる2人の子どもと住宅ローンを抱える真っ只中ではあるが、そんな私には安定した収入を捨ててもやりたいことがあった。それは「人の心に温かい言葉を届け、自分4の周りから世界を平和にすること」

マザー・テレサはノーベル平和賞を受賞した時のインタビューでこう言っている。

「家族に『ありがとう』と言うことが世界平和の始まりです」

私は今、心が揺さぶられる話が載った本紙を広める活動をしている。時には心が温かくなる話を書いたり、聴く人が前向きになるような講演をしたり、元気が出る話を取材する。私にとっての「世界平和活動」である。

とある中学校で講演をした後、女子生徒から珍しい質問をされた。

「山本さんの話は感動する話や温かい話ばかりです。泣きそうになりました。でも山本さんの周りでは悲しい出来事やつらいことは起きないのです？」

率直な感想に少しほっこりした気持ちになった。何か思春期特有の悩みを抱えているのかもしれない。制服姿の彼女が純文学小説の登場人物のように見え、発したその言葉に美しさを感じた。

「もちろん私にもいろんなことがありましたよ。でも、今振り返るとそれらにはすべて意味があったとわかるんです。今もつらいことはあります。それにもきっと意味があるはずですよ。**ただ今はまだその意味はわかりません。わからないのでつらさを受け止めます**」、そう答えた。

「質問の答えになってるかな？」と彼女に聞くと、彼女は微笑みながら大きく頷いてくれた。

日本講演新聞 社説より

「あけましておめでとうございます」

というフレーズがコロナ禍の真っ只中、スムーズに言いにくい新年となってしまいましたが、きっと春に向けて徐々に終息してあたりまえの生活に戻れる日が近いと信じております。

とりあえず、家族や近しい人にしっかり『ありがとう』と言う正月にしましょう。

※ 「**辛**いに**一**を足す」と「**幸**せ」になる。

「一」ってなんだろう？

それは時間。時の流れだ。

辛かったあの体験のひとつひとつが全部幸せへの道につながっていくはずですよ。



本年もどうぞよろしくお願いいたします！！